

喜吉フォワード奨学金設立者： 喜吉様インタビュー

ICU 高校へのご寄付をお考えになったのはなぜですか？

はじめは我が母校 ICU への「恩返し」寄付をしていました。その後、長女（96年卒）が大きく成長した ICU 高校へ「感謝寄付」をするようになり、3年前に「喜吉フォワード奨学金」制度となりました。

60歳の時にライフモードを「お金を稼ぐ」から「使う・差し上げる」にシフトしました。その頃に ICU では「Peace Bell 奨学金」制度向けの寄付募集が始まりました。経済困窮家庭出身の人にも ICU 進学を希望して欲しいと考えた先輩の大口寄付が契機です。私の ICU 入学動機は当時の「入学金免除・授業料4年間半額」制度でした。いつかはお返しすると思いつけていました。経済的に余裕ができ、この先の人生が読みやすくなったので、「恩返し」寄付を始めました。

ICU 高校向けの寄付は、10年程前に高校評議員会メンバーになったことが縁です。ICU 高校への門を経済的困窮家庭の中学生にも広げたいと思いました。また学校主催のスタディツアーの参加費用を親に頼みにくい在校生がいることを知りました。私の大学時代を思い出して、「喜吉フォワード奨学金」を、中嶋校長、松坂教頭の支援を得て創設して頂きました。



喜吉憲さんと長女の絃子さん（ICU 高校 16 期生）

どのような学生時代を過ごされましたか？

惨めな高校時代でした。区立中学から国立高校に進学でき鼻高々でしたが、2年の時に不登校生となりました。もちろん大学受験は失敗し、都立定時制高校の事務員となった。働くことは楽しかったが、夏を過ぎた頃に高卒で終わりたいという気持ちが強くなった。受験情報誌で ICU という大学を発見した時の喜びは忘れません。

大学時代は、生活費を稼ぐバイトで忙しく、同級生と遊ぶ余裕がなかった。また当時の社会情勢もありました。「ベトナム戦争反対」、さらに「既存秩序の解体」を叫ぶ学生運動が本格化しました。3年生の時に ICU では大学の全施設が鉄製の高い防護壁で囲まれ、大学の要請で機動隊が常駐した。友人との間にも亀裂が生じ、辛い気持ちに耐えて卒業した。

卒業後は大学のことは思い出したくなかった。でも不思議ですね。卒業後30年、50歳を過ぎた頃、同窓会報で大学祭を知りキャンパスを訪ねた。知る人もなく、学食でカレーライスを食べることにした。学食の前には「やまばと学園」の寄付ブースがあった。卒業生ご夫妻が福利施設を運営していると知り、少額の寄付（たぶん1万円）をさせて頂いた。これで母校とつながったような気がした。

娘さんの ICU 高校時代はいかがでしたか？

帰国後は日本の学校に馴染めず苦しそうだったが、ICU 高校に通うようになって自分を取り戻したようだ。猛烈サラリーマンだった私の記憶に残っているのは2つの口論。長女は休暇中にバイトをしたいと言い、私は勉強して欲しいと言ったが、冬休みの郵便局の短期バイトは渋々認めた。もう一つは大学進学で、普通の大学に進学して欲しかった私に対し、長女は「私はお父さんとは違う。看護の道に進みたい」と言い口論となったが、母親のサポートを得た長女が勝った。40歳を過ぎた彼女の今を見てみると娘は正しかった。

ICU 高校の良いところはどこだと思われますか？

高校評議員会では生徒の活動報告があります。学業、クラブ活動と忙しい高校生活の合間を縫って、ボランティア活動までしている生徒さんが眩しい。プレッシャーは有るのだろうが、やりたいことを楽しそうにやっている。また、一般生と帰国生が互いに刺激し合い、優秀な女子学生が多数の環境で男子生徒が奮闘しているのも良い。また

このような学風を大切にしている先生方の存在も大きいですね。

ICU 高校の卒業生へのメッセージをお願いします

私が40才の頃、米国南部州勤務時代の話を紹介します。地元の有力ビジネスマンから「寄付は家庭を持ってから、子供の学費が終わってから、マイホームを持ってからにします、と言っている間に年を取ってしまう。先に延ばさずに、今からそして小さな金額でも寄付をすることが大切」と指摘された。当時は米国南部への日本企業の進出が進んでいた。雇用創出では大歓迎されたが、地元コミュニティに対する貢献が弱いことに不満があったようだ。

私は二つのことを実行した。一つは United Way という地元募金団体への毎月の寄付。もう一つは、New York にある日本国際基督教大学財団(JICUF)への年末の寄付。忘れてしまいたい大学時代だったが、ICU を創ってくれた米国人クリスチャンへの感謝の念を持ち続けていた。私の職業人生を振り返ると、ICU 大学の Freshman English で得たスキル、そして Liberal Arts 教育から得たものは大きい。

「ICU 高校サポート募金」への寄付は少しずつ大きくなっていますね。また卒業後間もない若い方の寄付件数も多く、毎月寄付している人もいと聞いています。さすが ICU 高校の卒業生で、「今からそして小さな金額でも」を実践している。私も頑張っけて寄付を続けます。そしていつの日か卒業生の皆さんが創るであろう制度に引き継がれることを願っています。

喜吉 憲

「喜吉フォワード奨学金」の趣旨にご賛同くださる方は、「寄付目的」で「喜吉フォワード」をお選びください。

<https://icu-h.ed.jp/donation>



2025 年度 喜吉フォワード奨学金

ICU 高校設立の理念を理解し、その使命達成のために尽力する志ある生徒のうち、経済的事情により就学に困難のある者の就学および学校生活を支援し、その豊かな成長を図ることを目的に、2022 年度から 8 年間にわたり設定されるものです。

在学中の学びを更に豊かにという願いから、本校が主催するスタディツアーを対象とした奨学金も給付しています。

◎給付内容

- 入学金支援 30 万円 (応募者数・採用者数により給付額が変更される場合があります)
- スタディツアー支援 国内・海外上限 20 万円

◎対象者

世帯年収は国による就学支援金と同じ約 590 万円を目安としますが、家族構成なども考慮しますので、世帯年収が目安を上回っていても応募可能です (年収目安は、保護者 1 人のみ給与収入がある 4 人世帯 (夫婦と子 2 人) をモデルとした場合です)。

なお、世帯年収 490 万円程度までの方には、必ず給付します。

◎採用予定者数 10 名

◎応募時期 入学後

◎『喜吉フォワード奨学金』給付実績

2022 年度 7 名に 15~30 万円の入学金補助

2023 年度 6 名に 15~30 万円の入学金補助、

3 名に 2 万円のスタディツアー補助

2024 年度 10 名に 15~30 万円の入学金補助、

3 名に 3~10 万円のスタディツアー補助